

令和6年第7回東京都北区教育委員会定例会

会 議 月 日	令和6年9月11日（水）午後1時30分		
開 催 場 所	北区教育委員会室		
出 席 委 員	教 育 長	清 正 浩 靖	委 員 本 間 正 江
	委 員	宮 川 淳 子	委 員 長 谷 川 み どり
	委 員	長 谷 川 勝 久	委 員 名 島 啓 太
事 務 局 職 員	教育振興部長	教育政策課長	
	学び未来課長	学校改築施設管理課長	
	学校支援課長	生涯学習・学校地域連携課長	
	教育指導課長	教育総合相談センター所長	
	飛鳥山博物館長	中央図書館長	

会議に付した議案並びに審査結果

日程	報告事項	報 告 内 容	結果
1	20号	「中学校部活動への要望アンケート」の結果報告について	了承
2	21号	令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について	了承

令和6年第7回東京都北区教育委員会定例会会議録

令和6年9月11日（水） 13:30

清正教育長	それでは、出席委員が定足数に達していますので、会議は成立しています。これより、令和6年第7回北区教育委員会定例会を開会いたします。 初めに、日程第1、報告第20号、「「中学校部活動への要望アンケート」の結果報告について」です。 教育政策課長から説明をお願いいたします。
教育政策課長	教育長
清正教育長	教育政策課長
教育政策課長	それでは、報告の第20号でございます。1枚、お開きをお願いいたします。 「中学校部活動への要望アンケート」でございますけれども、過日、今年度中に部活動地域連携・計画策定する旨、ご報告をしたところでございます。計画策定をする上で、必要となるデータ、これを集計するためにこの7月にアンケート調査を実施したところでございます。 その結果報告でございます。お示しのとりの回答状況となっております。こちらが集計の内容でございましてアンケート、実際の中身でございますけれども、その後ろに少し大部の資料というところで、ご用意をさせていただきました。お手数ですがけれども、この中身につきまして幾つか触れてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。 なお、アンケートの設問等につきましては委員の皆様事前にメールでお伝えをし、そのご意見を反映した上でアンケートを作成しているというところでございます。幾つかあるところ、合計で十数か所設問、回答に当たってまいりたいと思います。 まず、恐れ入りますけれども、4ページです。4ページをお開きください。これは小6の児童、右のほうに小6の児童と書いてございます。 4ページ、中学生になったら入ってみたい部活動でございまして、4ページの下が男女の計になってございます。こちら、目立つところでバドミントン、バレーボール、サッカー以下、お示しのとりとなっております。 恐れ入ります。7ページまでお進みいただいて、こちら小6の児童でございますけれども、7ページの上段です。部活動に求めるもの、これは「楽しさ」、それから「仲間との交流」「技術向上」の順となっております。 次が小6の保護者を見てまいりたいと思います。小6の保護者、12ページ上段をお願いいたします。 12ページの上段です。学校教員以外の有資格者から専門的な指導を受けさせたいと思う小6の保護者、9割弱でございます。いらっしゃいます。 その右のページ、13ページの下段、新しい部活動、合同部活動や地域クラブ活動、

どの距離までなら参加してよいかというところで、約半数が自宅から自転車で通える距離という、小6の保護者の皆さんは回答してございます。

次が中学校の生徒にまいります。19ページまで、すみません。お進みいただきます。19ページです。

19ページの下の方です。部活動に何を求めるか、こちらも「楽しさ」、それから「仲間との交流」「技術向上」といったような順になってございます。

次のページ、20ページの下の方です。問の10です。資格のある指導者から専門的な指導を受けたいと思うかという設問に対しては、「思う」「やや思う」で合計65%という数字になってございます。

21ページの上段、新しい部活動、肯定的な意見というところでは57%の中学校生徒が肯定的な意見を示しているというところなんです。

その下に、そういう新しい部活動を選択できた場合で、なおかつ通っている学校にない部活で入りたい部活というところ、お示しのとおりになっております。こちらもバドミントンが一番多いという結果になってございます。

恐れ入ります。次は保護者にまいります。26ページまでお進みをいただきます。

26ページの下段です。学校の教員以外の指導者から専門的な指導を受けさせたいか、「思う」「やや思う」が8割弱、先ほど小6の保護者が9割弱おりました。一方で中学校の生徒に対する同じ設問では65%という数字になっておりますので、保護者と生徒との間には乖離があるというところを読み取れるという数字になってございます。

27ページ、お隣上段です。新しい部活動を選択してみたいか、でございますが、肯定的な意見、86%を占めてございます。

29ページまでお進みいただきます。地域クラブ活動、地域主体の部活動、これは地域の団体等が主体的に責任を持って運営するということになるんですけども、参加費、これを徴収することになります。幾らまででしたら負担していいかという設問、平均値で大体1,500円ぐらい、毎月1,500円ぐらいでしたら出してもいいと。日数をどうするか、活動日数をどうするかというところはあるんですけども、このような数字になってございます。

最後に中学校の教員です。33ページまでお進みいただきます。

33ページの下の方、下段でございます。問の5です。週4日以上、部活動へ対応されている先生方、50%いらっしゃいます。

次のページ、34ページ上段です。問の6、部活動に負担を感じている先生、7割弱いらっしゃいます。

お隣、右の35ページの上です。部活動に今後も関わりたいか、3割の先生、「思わない」「あまり思わない」が約5割の先生がいらっしゃるという結果でございます。

それから37ページまで、恐れ入ります、お進みいただきます。

上段でございます。休日だけでも地域の団体に指導してほしいと思う先生、「思う」「やや思う」5割強、「思わない」「あまり思わない」2割強。こういった数字になってございます。

こちらがアンケートの中身になってございます。

参考資料でこういう、すみません。A3の折り畳みの縦の数字、縦の表ですけど

も、これは何かと申しますとこの資料1、2ですけれども、純粹に中学生になったら入ってみたい部活の生データでございます。先ほど説明したアンケート、このカラーのほうは進学予定先の北区立中学校において、希望の部活動がない回答数を抽出した数字ということになっていまして、その辺りのちょっと違いがあるというところでございます。白黒のデータは進学予定先の北区立中学校において、希望の部活動があるないにかかわらず、入ってみたい回答数、全てをこちらに計上しているというところでございます。

すみません。恐れ入ります。次が資料の2です。2枚ものの2点留めのものでございます。こちらにアンケート調査から見る、課題やポイントを掲げてございます。

1ページ目、児童・生徒です。この一番上、やりたかった部活が学校にないという課題に対してのポイントというところで、地域クラブ活動など新たな方法を導入する必要があるというふうに捉えてございます。

それからその下、専門的な指導を受けたいという課題、指導者の確保が必要だというふうに捉えてございます。

恐れ入ります。次のページにまいります。

2ページです。上段が保護者の結果から読み取れる課題・ポイントを示してございます。2ページの下段が教員の結果から読み取れるものというところで、ここを見ますと多くの先生方が負担を感じていると。一方で部活動に関わりたい、携わりたいという先生方、3割いらっしゃると。約3割いらっしゃるという数字になってございます。

3ページは区としての課題を掲げてございます。

最後の資料が基本的な方向というところで、こうした課題あるいは必要性を踏まえまして今後どうしていくかというところの、現時点の方向性、これは検討会議を2回開催しまして、その中でもご議論をいただきながら、現時点ではこういう方向で進めていきたいというものを整理したものでございます。

1ページに目的二つ、大きくございます。お示しをしてございます。

2ページの上段、部活動改革の方向でございます。既存のものも充実しながら、新たな地域主体の地域クラブ活動を、これをつくってまいりたいというものです。

それから、2ページの下段です。その地域主体の部活動、これは国、あるいは都も言っておりますけれども、まずは土日を中心に週1日程度の活動から始めたいと、始めようというところで考えてございます。

それから、3ページの上段が今後の活動スケジュールというところでお示しをしてございます。現時点の予定でございます。

それから3ページ、下のとおり、指導員・補助員も拡充していく必要があると捉えてございます。

4ページの上段でございますけれども、これは指導員の委託検討でございます。指導員の人材確保、大変難しい状況がございますので、これは民間委託によって確保できないかというところの検討を進めてまいるというところでございます。

4ページ下、合同部活動につきましても方向性を出していきたいというもの。

それから、5ページでございます。現時点の当初の目標ということで、今後どういふふうに進めていくかというところでございます。お示しのとおりでございます。一番

	下、地域主体のクラブ活動、これにつきましては現時点では来年度スポーツ 1、文化系 1、毎年お示しのとおり合計 2 種目ずつ増やしてまいりたいというところを現時点の目標としたいというふうに考えているところでございます。 詳細につきましては今後、計画策定、この検討を進める中で検討会議の議論を踏まえながら方向性を定めていきたいというふうに考えてございます。 説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。
清正教育長	ご説明、ありがとうございました。 本件につきまして、ご質問またはご意見はございますでしょうか。
本間委員	教育長
清正教育長	本間委員
本間委員	大変深い内容であったなというふうに思いますし、特に教員の意向などが分かったことも大変ありがたいことだなというふうに思っております。あわせて、今後地域移行の難しさという点も多々進めていく上であるかというふうに思いますけれども、順調に進んでいくことを願うところです。 それと同時に思ったことが、今回回答率が中学校の教員を除いては割と低い状態なので、この辺の回答率の有用性については長谷川勝久委員から数学的な視点からも教えていただきたいというふうに思うんですけれども、これは任意で提出という形で、家庭で回答という形だったのでしょうか。
教育政策課長	教育長
清正教育長	教育政策課長
教育政策課長	いずれにいたしましても、なるべく回答しやすいような方法をお願いした上で、またこれは校園長会におきましてもそうですし、繰り返しある程度の数字が必要だということで、重ねてお願いをしてきたところで、この数字と。アンケートの期間につきましても、1 か月ほどになりますけれども、再三お願いしてきた結果が、こういう結果だったというふうな状況でございます。
長谷川勝久委員	教育長
清正教育長	長谷川勝久委員
長谷川勝久	すみません。回答者数ですけれども、ぱっと見た感じ一番低いので 26 % ぐらいです

委員	ね。抽出調査の場合はこれぐらいのパーセンテージでも、解析するものによっては異なりますけれども、推定する技術がございますので、そういう理論がございますので、そんなには大丈夫かというふうに思っております。 以上です。
清正教育長	ありがとうございます。よろしいでしょうか。 ほかにいかがでしょうか。
名島委員	教育長
清正教育長	名島委員
名島委員	ご説明、ありがとうございました。とても興味深いですし、非常に分かりやすいご説明でいろいろ感じるところがあるんですけども、私が部活動を考えるとどうしても合唱を通じてということになってしまいうんですけども、各地で合唱部のコンクールとか、あるいは最近は修学旅行で東京に来て、プロの合唱指導を受けたいというような、そういういろいろな中学の部活動に関わってくると、教員が負担を感じる理由の中に、経験のない種目を指導するというのもある程度の数字があったと思うんです。 例えば音楽の教員でも、発声とか指揮に関する技術がないなと感ずることが実際非常に多くて、部活の教育がというよりも、それはそれでかなり問題だと私は感ずることがあります。ただ、本来のアンケートを見ると、専門的な指導を受けたいという声や、生徒が専門的な指導を受けられるよう進めるべきという意見もありますので、専門的な指導を受けるという意味で、地域の活動を積極的に利用して、専門性を兼ね備えた選択肢を増やすことは、非常に重要なことなのではないかなと思います。 ですので、やりたい部活がなかったという声もありましたので、専門的でかつ選択肢を増やすということを、ぜひ進めていただけたらなと。そして、中学生にそういう専門的な活動に触れることができる機会を多く与えてほしいというふうに思いましたので、ちょっと発言させていただきました。
清正教育長	ありがとうございます。 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。 (質疑・意見なし)
清正教育長	それでは本件に関する報告は終了させていただきます。ありがとうございました。 次に、日程第2、報告第21号、「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について」です。 教育指導課長から説明をお願いいたします。
教育指導課	教育長

長

清正教育長

教育指導課長

教育指導課
長

それでは私から令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、各教科の平均正答率及び児童・生徒質問調査の結果を中心に、ご報告申し上げます。

本調査は小学校義務教育学校第6学年と、中学校第3学年、義務教育学校第9学年の全児童・生徒を対象として、本年4月18日に行われたものでございます。

調査の目的につきましては、資料1ページに記載したとおりでございます。教科に関する調査につきましては小学校が国語・算数の2教科、中学校が国語・数学の2教科となります。なお、この後の説明につきましては義務教育学校の第6学年と第9学年は、小学校第6学年と中学校第3学年に含まさせていただきますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは2ページをご覧くださいと思います。

これは資料1、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果についてです。

上段の表でございますが、小中学校の各教科の北区、東京都全体、国全体の平均正答率を一覧にしたものでございます。これを見ていただきますと、小学校は国語・算数共に、国と東京都の平均正答率を上回っています。昨年度同様に、よくできていると思います。

中学校は国語の平均正答率は国よりも高く、東京都とは同じでございました。数学は国及び東京都を上回っています。国と東京都と比較するとよい結果だと言えると考えています。なお、中学校の国語は東京都の平均正答率と同じではあるんですけども、北区の生徒の中央値が東京都よりも多い正答率の層にあるため、東京都よりも北区の子どもたちのほうは理解していると考えてございます。

次に、このページの資料の中ほどからは年度間の比較を一覧にしたものでございます。こちらの結果は、国は問題の難易度を調整しておらず、出題内容も異なるため、年度ごとを単純には比較できません。このため、各年度の平均正答率がそれぞれ100となるようにした標準化得点というものを用いています。

平成27年度から見ていきますと、年度間の多少の上下はございますが近年は全体的には下がらず、国や東京都の平均以上の学力の状態になっていると言えます。

次に資料にはありませんが、実施教科における課題について簡潔にご報告します。

国語、小学校では事実と意見を明確に区別せずに文章を書くこと、つまり資料から読み取った事実とそこから受けた自分の感想などを分けて書くことに課題がありました。中学校でも似た傾向がありまして、文脈から必要な情報を取り出すことに課題が見られ、それを自分の考えを書くことや伝えるための工夫につなげることができていないような課題が見られました。

算数・数学では共に、問題の判断理由を数学的な表現で説明する文章化が苦手ということも分かりました。こういったことは改善してまいりたいと思います。

では、3ページの資料2をご覧くださいと思います。

この資料は児童・生徒質問紙の回答内容と教科の正答率の関係を分析したもので、何

枚かめくっていただきますと、このページから三つの質問を取り扱いました。今、お開きいただいているページでは20番となっていますが、20、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。棒グラフがあると思いますが、それが学力との相関を表しているものでございます。

そして、30番。5年生、中学1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

33番。学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。

こういった三つの質問と学力の相関を表した資料をつけさせていただいています。今、申し上げました三つの質問は、課題解決学習への取り組み姿勢、主体的・対話的な態度、そして個別最適な学びと共同的な学びに関する項目でございます。この質問にはほぼ肯定的な回答ほど、教科の正答率が高い傾向があることが分かりますので、授業では主体性を大事にしながら、関わり合いも大事にした教師の授業改善を図る必要があると考えています。

次に児童・生徒質問紙の回答結果の分析について説明します。

簡潔に説明します。昨年度新設された質問を取り上げます。小学校は19ページ、中学校は57ページ、どちらかお開きいただけるとよろしいかと思います。

こちらは19番。普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますかにつきましては、小学校・中学校共に9割の児童・生徒が肯定的な受け止めをしていることが分かります。子どもの権利と幸せに関する条例の子どもの意見表明権を大事にした教育活動の実施を図っていくようにしたいと思います。

それからもう一つ、28の1から28の7までの質問です。こちらは「きたコン」とICTについて、今年度新設された質問です。小学校は23ページから、中学校は61ページからとなります。

こちらは自分のペースで理解しながら学習を進めることができるとか、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなるなど、8割以上の児童・生徒が肯定的な回答をしております。国や東京都と比べても、それ以上の結果であったと考えています。今後も子どもの力を伸ばす道具として、日常的に授業等で「きたコン」を使用していくように指導・支援してまいりたいと思います。

以上でございます。この結果は教師の授業改善に生かすとともに、児童・生徒の生活指導の充実につなげてまいります。資料の分量、大変多くなっております。詳細につきましては、後ほどご高覧いただきたいと思います。なお、次年度は小中共に理科の教科が入りますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

清正教育長

ご説明、ありがとうございました。本件につきまして、ご質疑またはご意見はございますでしょうか。

本間委員

教育長

清正教育長

本間委員

本間委員

感想のようなことで大変恐縮なのですが、まずは丁寧なご説明、ありがとうございました。

本日も午前中、教育指導課の一般訪問に、西浮間小学校に同行させていただいて授業を拝見してきましたのですが、今のご説明のところにもありましたけれども、少人数というよりも西浮の場合は児童数が多いですから算数が分かれていても、本当に都が言っている習熟度をきちんとしているという状態が見てとれまして、それはほかの学校についても言えるんですが、都の加配もさることながら、やはり北区は財政的なことでいろいろな課題がある中でも、根気強くパワーアップの講師をずっと継続してつけてくださっていることの力というのは大変大きいなというふうに思っています。

また、年々先生方も若い先生方がお入りなっている中でも、パワーアップの先生方が上手にサポートなさって、またそういうシステムが先生方の中に浸透してきているということも授業を拝見するたびにとてもよく感じます。さらに、教育指導員の先生方の巡回でのご指導のたまものもありますし、もちろん指導主事の先生方のご指導のたまものもあるというふうにも、本日もまた改めて思ったところです。

その中で、本当にちょっと話がそれてしまうのですが、今日も新聞コンクールの、比較して読むものの題材につながるものが掲示されていたんですが、4年生の女子が2つの記事のところからすごく、それこそ示唆に富んだ内容を提示してくれていて。それは子どもたちの自尊感情の低下ということを取り上げていたんですけれども、自尊感情が子どもたち、日本は低いというふうに言われているけれども、それ以上にある新聞記事を取り上げて、日本の大人の自尊感情の低さのほうに課題だというふうに子どもが言っているんですね。自分たち、子どもから見て、大人の自尊感情が高まって、社会に出て楽しいことがあるんだということを見せてくれたら、自分たちもおのずと自尊感情は高まっていくだろうというような文面で締めくくっている内容だったんですね。

大変、ドキリとしました。学力の向上とともに、もちろん学校生活、家庭生活等も含めて子どもたちの気持ちを酌み取っていくんですけれども、改めて身近にいる大人の一人として自分たちが見せている姿というのが、そういった子どもたちの生きる上での、本当に先を歩く者として、我が身を振り返らなければいけないなというふうにも思いましたし、そうした思いを北区全体が行政も学校現場も、あるいは社会全体が共有化して子どもたちと対していくという、そういう一体化といったことがすごく理念的で恐縮ですけれども大切なこと、そういう意味での大人同士のコミュニケーションといったことも、より大切にしていかなければいけないなということも感じてまいりました。

少し話がそれましたけれども、感想とともにお伝えさせていただきました。以上です。

清正教育長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(質疑・意見なし)

清正教育長

それでは本件に関する報告は終了させていただきます。

以上で本日の日程は全てを終了いたしました。これをもちまして、令和6年第7回教育委員会定例会を閉会させていただきます。